

【4】取り組みの構想

われわれは、生徒たちが、

- ・健康で（病気と上手につき合うことも含めて）
- ・生活のリズムが整っていて
- ・働く場を持つことで社会参加をし、自分の持つ力を出しきり
- ・人との関わりがあり
- ・自分なりにしたいこと、楽しみや生きがいがあり、余暇を有意義に利用できる

というめざす将来像に近づくことを願いながら、日々実践を行っている。これらは、一人ひとりの社会参加の姿を具体的に模索していく高等部の教育では、当然意識すべきものである。しかし、本校の卒業生には、職場や地域の中で孤立しがちだったり、楽しみや生きがいが見いだせない日々を送っていたりという例が多く見受けられる。自分の力を存分に発揮して仕事に取り組み、自分なりの楽しみを持つような主体的な生活を望んでいるが、十分に達成されていない厳しい現実がある。そこで、「生活を楽しむ」という視点を取り入れた実践を行うことで、めざす将来像に迫りたい。

高等部での今の生活そのものを思いきり「楽しむ」経験を積むことで、「楽しい」ということがどんなことかわかり、「楽しい」の意味がさらに拡がり深まっていく。そのことが、将来の生活のなかで、楽しみをみいだしたり、進んで楽しみを求め活動していこうとする姿につながる。加えて、学校生活そのものが思い出であり、生きる張りとなっている卒業生も多いことから、今の学校生活をより充実したものとしていきたい。

そのため、この研究では一人ひとりの個性をより大切に、内面にも十分に目を向け、生徒たちが、日々生き生きと充実感を持って生活できるようにしていきたい。

高等部の生徒には、次のような傾向が見られる。

- ・自分で選択したり、決定したりする経験に乏しい。
- ・自分なりの考えを持つことが苦手である。
- ・指示待ちの傾向があるが、言われたことには素直に取り組もうとする。
- ・自分なりの目標を持って、それに向かって努力している生徒が少ない。
- ・自分のできること・できないことが、学年が進むにつれてわかりだしている。
- ・他との関わりが苦手な生徒が多い。
- ・作業することへの喜びを感じ始めている生徒が多くなってきた。
- ・自分なりの楽しみ方の範囲が狭く、他者に依存しがちである。

こうした傾向から、生徒に次のような「生活を楽しむ」姿を望んだ。

- ・自分らしく自分の人生を歩む。
- ・将来に対する見通しがある。
- ・夢や希望、もしくはもっと近い楽しみがあり、それを期待して待つ。
- ・自分なりにしたいことや満足感が得られることを持っている。
- ・一つ一つの活動に、自分なりに目的意識を持って取り組む。
- ・自分の力を出す方法を知り、出しきった充実感を味わう。
- ・受け身ではなく、主体的に活動していて、そのことに喜びがある。

- ・自分に対する誇りと自信がある。
- ・人のためになることをして喜びを持つ。
- ・生き生きと活動できる好きなことや趣味がある。
- ・自分の思いや選択を生かして、活動をする。
- ・自分のしたことが、周囲の人に認められ、喜びを持つ。
- ・気持ちが満たされて、明るい気持ちで暮らしていく。
- ・心にゆとりや潤いがある。
- ・心の支えになるものがある。

「生活を楽しむ」についての以上のような思いを基に検討した結果、高等部の研究テーマを次のように設定した。

自分の考えを持ち、活動のなかに喜びをみいだす生徒

「生活を楽しむ」ためには、「人に言われて」「何となく」するのではなく、まず自分の意思や考えを持つことが大切である。生徒たちは考えを自分の言葉でまとめて言える段階から具体的な選択肢を与えられて選ぶ段階まで様々であるが、一人ひとりに応じた方法で、思考のゆれを大切にしながら自分の考えが持てるようにしたい。なお、そのなかでも自己中心的で社会的に許されない考えについては、考え直す場を準備したい。

自分の考えを持って主体的に活動に取り組むことにより、積極性や責任感が生まれ、やりとげることで自信もついてくる。目の前の楽しさを追う段階から、先を見通して苦しいことも乗り越えようとする段階まで、楽しみ方はいろいろであるが、自分なりに活動の中に喜びをみいだしてほしいと願っている。

さらに、「自分の考えを持ち、活動のなかに喜びをみいだす生徒」を育てるために、次のような力をつけたいと考えた。

- | | | |
|----------|--------------|----------|
| ○認識する力 | ○集中力 | ○見通す力 |
| ○自己決定する力 | ○表現力 | ○創造力 |
| ○選択する力 | ○コミュニケーションの力 | ○価値を認める力 |
| ○判断力 | ○体力 | ○豊かな感性 |
| ○基礎学力 | ○基本的生活習慣 | ○意欲 |

以上のような考えを基に、研究の教科・領域を、仲間意識・自己認識の力を高めながら生活に必要な力をつけ、生徒が判断・選択・決定する場面が豊富にある「生活一般」、目的意識を持たせながら集中して取り組む態度や技能を育てることのできる「職業科」、個に応じた活動を準備し技能も習得させることで将来の余暇利用にもつながる楽しみを育てようとする「選択学習」、生徒たちが主体的に計画・運営し、青年期らしい活動の展開が可能な「特別活動（学部集会・ホームルーム活動）」とし、実践に向かうことにした。

(河田)